



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO ■ DOHO ■ ENGOKAI

同援だより

2011年 盛夏号

<http://www.doen.jp/>



復興を祈る

常務理事 菅原 眞廣



先般、平成二十二年度の事業報告及び決算報告が役員会で承認されました。おかげさまで、各施設、各事業がおおむね初期の目標を達成することができました。関係各位と職員の皆様に心より感謝申し上げます。

このたびの東日本大震災では、多くの方々が犠牲になられました。お悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、被災地の日も早い復興をお祈りする次第です。

大震災への当法人の取り組みについては、本文で詳しく報告させていただきます。

まだ原発事故は続いており、災害復旧もなかなか進んでおりませんが、今回の大震災への対応において、「危機管理」という点でいくつかのことを考えさせられました。ひとつは、緊急時にスピーディな対応をするためには、強力なリーダーシップと、スリムな命令伝達組織が大事ということ。二つ目は、希望的な観測をもとに対策を立てるのではなく、最悪のケースを想定して対策を立てることが重要であること。三つ目は、情報は小出しにするのではなく、迅速かつオープンにすること。自明のことかもしれませんが、実践されていないように思えます。

テレビに映る避難所の生活や、ガレキの山などを見るたび、国が進めている「生活の平常化に向けた取り組み」とのギャップを感じた方は多いと思います。

当法人は規模も大きく、利用者の安心・安全を守る義務を負っています。今後の復旧・復興や原発事故への対応を注視し、私たちの組織運営にも活かして行きたいと考えています。

被災地支援に参加して

さいわい福祉センター

副所長 荒井隆夫

被災地への障害者支援は、東社協
知的発達障害部会と東京都発達障
害支援協会による合同災害対策本
部が設置され、当センターでも五月
より計四名の職員が隔週ごとに被災
地支援に参加し、私も五月十七日、
二十二日までの第十四次派遣隊とし
て、同僚一名とともに宮城県本吉郡南
三陸町・気仙沼市の支援に参加した。
出発当日、石巻市の湾に面した小
高い丘の日和見公園に立ち寄った。そ
こでは石ノ森章太郎の漫画館と数件
の家以外は全て津波にのまれた無残
な海岸線を目にした。また、全国の皆
さん救援ありがとうと書かれた垂
れ幕と花が手向けられていた。階段



を下ると、風景が現実として押し寄せてきた。

宿泊地（登米市の知的障害者入所施設「はんとく苑」の自立棟として活用しているアパート）に着くと、前任チームからの引継ぎとコーディネーターからの今の被災地の状況、さらに

は支援に当たっては「我々は支援しよう」と百パーセントの力で臨もうとする。しかし、被災された方は、その気力すら持てず五十パーセントの力も出すことが出来ない。「優しい言葉かけや問いかけは触れられたくない傷口を広げる結果となってしまう、コミュニケーションの復活が重要である」等の話があった。

支援内容は、気仙沼で相談事業を行っている洗心会との連携により①知的障害者が雇用されている魚市場近くにある結婚式場の復興②送迎バスが運行できずに通学出来ない障害児のための送迎③NPO法人が運営しているケアホームの利用者支援が主であった。

結婚式場での活動は、高圧洗浄機での砂や泥などの吐き出し、荷物運び、ゴミ出し等で、Tシャツを数回着替えるほど汗だくとなった。雇用されている障害者の一人が、汚れて落ちないポリバケツを一緒に洗いなから「新しいの買ってもらえるのかな？」とポツリと呟いた。昼食は回転寿司店でお弁当を食べ、休憩時間には結婚式場のすぐ横を流れる大きな川の中に数多くの車と家が沈んでいるのを目に





した。その先には川の両端まで大漁旗が飾られ、日に日に増えていった。
ケアホームでの活動は、給水場への水汲み、自衛隊の入浴施設「やまねこの湯」への入浴支援、昼食作り、外出の付き添いなどであった。ここでは地域の被災者四名の受け入れも行って

いた。
私は送迎と結婚式場の清掃活動を行った。出発は朝の六時半、最初の送迎ポイントに着くまでに三十分。計十二名の生徒を支援学校に送り届

けるまでに二時間三十分、往復五時間を要す。北上川を眺め、長閑な山間を走っていると、急に木々が倒れ、津波で運ばれたあらゆる残骸が山となつて積み重ねられている光景を目にした。送迎ポイントには平成の里という避難所、親戚の家に身を寄せていると思われる方などもいた。帰りの送迎では保護者より採りたての筍を頂き、その日の夕飯は筍の煮物を作り美味しく頂いた。

数日の中でも土台だけしか出来ていなかった仮設住宅の柱が少しずつ立ち上がつていたり、お店の柱に「近日常オープン」と書かれたシールが貼られたりと、復旧から復興へと確かに歩んでいる姿があった。しかし、送迎中自閉症の児童が突然「地震」という言葉を発し、心はその時の恐怖を未だにぬぐいきれずにいることも感じた。

活動最終日に、コーディネーターのご配慮で陸前高田市を案内して頂いた。そこは今まで観てきた光景とは違い、津波で全てが流され、建物は爆弾を投下された後のようであった。

活動期間はあつという間に過ぎ、私たちの行ったことはほんの一部であったが、今後も多くの方々の支援の輪が

さらに広がり継続していくこと、そして、被災された方が一日も早く心から笑顔を取り戻すことが出来ることを心から願う。

最後に支援に快く送り出してくださつた法人や職場の上司・同僚、さらにはともに支援活動を行ったすばらしい仲間感謝します。



ゆたか苑

介護職員 縄田晃一

このたびの大震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに被災された多くの皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

地震と津波で壊滅状態の被災地の惨状が毎日のように報道される中、東京都では四月十日より、宮城県気仙沼市にある「特別養護老人ホーム春圃

苑」「落合保育所」(以下落合福祉避難所)の二つの福祉避難所へ介護職員の災害派遣をおこなっています。その数は私も含め男性三十五名、女性十六名にのぼっているとお聞きしています。このたびは五月二十四日から二十九日までの第十二陣の災害派遣に参加させていただくことができました。

落合福祉避難所は、一般の避難所では生活できない要介護高齢者を受け入れていました。ここで生活されている避難者の方々は、被災前から介護保険を利用して在宅サービスを受けられていた方がほとんどのことでした。間仕切りのない広い一つの空間での集団生活を強いられており、プライバシーへの配慮が困難な状況でした。トイレはダンボールで仕切られたポータブルトイレが置かれていました。

気仙沼の街では、ここにどのような生活があつたのか想像できない風景が広がっていました。「撤去して下さい」とスプレーで書かれた二階部分の全てが津波で流された家。建物が流され土台だけになった場所に小さな真新しい鯉のぼりがたてかけられてある光景。どのような想いで撤去して



下さいと書かれたのか、なぜここに鯉のぼりなのか、とてもやりきれない想いで心がいっぱいになりました。避難所で生活されている方から、「友達が津波で流された」と津波があったときの事をお聞きする機会もありましたが、掛ける言葉が見つかりませんでした。

「仮設住宅の抽選に外れたの」「ここが無くなったらどうなるのかしら」と、これからの生活に不安を強く感じながらも「贅沢は言えません」と皆さん様々辛い事やしたい事を我慢されています。どうにも出来ない自分自身がとても悔しく感じてい

ました。

このように大変な生活をされているにも関わらず、被災地の方々は、とても前向きに明るく頑張っているように見えました。そして、見知らぬ街の人々からも「どうもありがとう」「ご苦勞様です」「被災地をしつかり見て行って下さい」「今度は気仙沼に遊びに来て下さい」などと温かいお言葉を掛けて頂き、改めて自分が出れる事を一生懸命にやろうと勇気を頂くことができました。派遣業務は慣れない環境の上、シフトによっては少ししか睡眠が取れないことなどもありましたが、派遣任務を遂行することができました。

落合福祉避難所での経験で多くのことを学び、貴重な体験をさせていただくことができました。職員とご利用者ではなく、人が人として向き合うことの大切さを改めて学ばせていただきました。限られた環境の中에서도諦めることなく工夫次第で、生活の幅は広がっていきます。介護の現場は生活の場であり、私たち職員が必要とされることは無限大にあります。六日間という短い期間でしたが、そんな当たり前なことに気付かされました。



た。そして、どんな環境にあっても介護の仕事は必要とされていることに気付き、この仕事のやりがいや改めて感じる事ができました。

「魚がおいしいから、今度はぜひ遊びに来てね」の言葉が何度も思い起こされます。今回お世話になった落合福祉避難所の皆様と被災されたすべての方の一日でも早い生活再建を信じて、再会できることを祈りながら帰途に着きました。

最後に長期間不在にしてしまった職

場には大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫びするとともに、このような大切な時間をいただくことができましたことを心より感謝申し上げます。

被災地の障害者支援施設への

職員派遣：二十二名

被災地の特別養護老人ホームへの

職員派遣：二名

同援の特別養護老人ホームに

被災地から受け入れ：二名

(平成二十三年六月三十日現在)

「東北地方太平洋沖地震」による被災福祉施設等への義援金の送金について

「東北地方太平洋沖地震」による福祉施設等の被災状況に鑑み社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会として義援金を募ってきたところです。

下記のとおり義援金を取りまとめ全国社会福祉協議会へ送金いたしましたのでご報告いたします。

皆様のご協力に感謝申し上げます。

- 1 送金額 金二、六〇七、八三五円
- 2 送金先 全国社会福祉協議会

退任挨拶

「感謝」



立川福祉作業所
前所長 田中紀久子

平成二十三年三月十一日の東日本大震災に襲われ日本中が大混乱している最中でしたが、先般三月三十一日付で退任いたしました。被災者の方々、又地域が一日も早く復興することを祈るばかりです。

私は大学で社会福祉を学び卒業後他法人の知的障害児の施設で児童指導員として働いておりました。そこで出会った子供達は、六歳から二十歳までの子供達でしたが、この子供達は成人になると成人施設に移管されます。家庭に戻る子供は殆どいませんでした。ここでは本人の意思も希望も配慮されることなく福祉事務所からの措置書により成人施設に入所していきましました。何人もの子供達を施設に見送ってきました。若かった私にとっては、子供達との別れは悲しかったです。障害をもつて生まれたことも大変な上に、この

子供達の人権はどうなっているのか、幸せになれるのか、この子供達を誰が守ってあげるのか、何か自分にできることはないか、と思ったことが私のこだわりでしょう。か、原点でした。この源が私の人生に流れ続けました。どうしても子供達が移った成人施設へ一緒に行つて暮らしをみて自分に何か出来ることはないかと思つていました。

昭和四十四年に同胞援護会知的障害者入所更生施設さやま園に就職致しました。さやま園では、利用者一〇〇名の大きな施設で障害の重い方から軽い方もいらつしゃつて、私にとつてはやりがいのある職場でした。建物は古くガタガタでしたが、上司、支援員、事務員、調理員まで本当に良い方に恵まれ、日々利用者の幸せを考え、利用者ひとり一人が目標を持つる支援計画を考えてきました。支援員会議では活発な議論を交わし職員みんな情熱を燃やし楽しく充実した日々でした。

さやま園では、利用者を二人でも社会に出したい、障害があつても可能な限り社会参加して、支援さえあれば普通に暮らすことができることをチャレンジさせたいと考えていたので、就労支援の仕事を中心にさせてもらいました。当時はまだノーマライゼーションの言葉もない時代に地道に支援員一丸となつてとりくみました。利用者が就職をして地

域で暮らせるように生活寮、今のグループホームを作つたりしました。このような仕事私の原点にほんの少しでも近づけてきたかと思える歳月でした。支援員としてこのまま継続したいと思ひました。

平成八年突然さいわい福祉センター所長に任命され、東久留米市の障害者センターの立ち上げに携わることになり、今まで知的障害者のみに係つてきたため、すべての障害者の支援、人口十二万の地域の拠点となるセンター機能を備える施設をつくる事業は大きなチャレンジでした。最初は何が何だか分からない状態で、この時もまわりの方に助けられ事業を立ち上げることができました。

さいわい福祉センターは十年間でしたが、ここでは、多くの事を学ばされました。地域で暮らしている精神障害の方・視覚障害・聴覚障害・肢体不自由の方々そして、その家族の声を傾聴し皆さんの要望に少しでも応えられるようになるには、自分自身が一回りも二回りも大きく成長することが課題でした。「福祉は人が幸せになるお手伝いをすること」なので、人に頼られる人間になるには、自分のような貧弱な人間ではと反省し自分が変わらなければと努力しながらでしたが無事に勤めることができました。

平成十八年立川福祉作業所が都立

から民間移譲となり、所長の辞令があり、ここが最後の職場になりました。授産事業と限られており、さほど苦労はしなくかえつて楽しませてもらいました。公立とは違った民間のシステムにしたり、パン屋まで営業して利用者と一緒に働く喜びを感じていました。また、現場以外に理事として5期務めさせていただきましたが、この間は大きく福祉が変わる時期でもありました。介護保険法の制定により法人としても方向性をださざるを得ない状況でした。改革の柱として給与制度の見直しを役員・施設長が知恵を出し合つて改革したことは忘れられません。あの改革があつたことで法人の今があると云つても過言ではありません。

私の半世紀を同胞援護会に身を置き、原点である知的障害に携つてこられたことは幸運な人生でした。四十年余り多くの利用者との出会い、その家族・地域のみなさんと交流できたことは私の財産です。

牧野理事長・菅原常務・事務局・施設長・職員の方々お世話になりました。今、鶯の声とカッコー鳥の鳴き声を目をさまし、ガーデンングを楽しみ静かに田舎暮らしを幸せと感じられるのも同胞援護会の大きな傘の下で充実した仕事が出来たからです。今は感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

新任施設長挨拶



立川福祉作業所
所長 山中誠一

本年四月一日付けで立川福祉作

業所の施設長となりました。施設長としての出発をこの慣れ親しんだ立川福祉作業所で迎えることを感謝すると共に責任の重さを痛感する毎日です。これまで開設から立川福祉作業所で勤務させていただきました。東京都同胞援護会で初めての試みの店舗『ベーカリー&カフェB A K U B A K U』の開店や、利用者の通所日選択制(祝祭日を含む)、土日のクラブ活動等の余暇支援・就労支援・生活支援など、どれを取っても先駆的であり柔軟で創造的な活動を展開し『魅力ある施設』を目指し利用者・家族・職員と取り組んできました。

この数年で障害者を取り巻く環境は、大きく変化し政権交代によ

り自立支援法も平成二十五年八月には廃案が決まっています。そして障害者総合福祉法に生まれ変わります。いまだ先が見えない混沌とした状況の中、この四月より立川福祉作業所は通所授産施設から、障害者自立支援法に移行し就労移行支援事業・生活介護事業・就労継続支援B型事業の多機能事業所へ移行しました。

四月は利用者・職員にとっても試行錯誤の連続の新しいスタートになりましたが、ようやく落ち着きました。

今こそ原点回帰して、ひとつひとつを大切にして知恵を絞り創意工夫をしながら『想いを形に』出来るように全力で取り組んでいきます。まだまだ未熟ではございますが、前施設長からしっかりとたすきを受け継ぎ、胸の中に『福祉の心』と『情熱』をしっかりと刻み立川福祉作業所は走り出します。これから職員一丸となって利用者そしてご家族の地域での暮らしを支えていけるように頑張っていきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

新任課長挨拶



新宿区榎町
高齢者総合相談センター
相談課長 後藤八重子

この四月より、新宿区榎町高齢

者総合相談センターの相談課長を命ぜられました。昨年度より、新宿区は高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)の機能強化を図り、今までの業務を「総合相談」と「指定介護予防支援」の二つのチームで行なうこととなり、相談員の数を倍増し九名の事業所となりました。その中で管理者となり、一年がたちました。

今年度は、新宿区内にある九箇所センターで初の、区の建物に配置されることとなり、八月一日より牛込保健センターの一角に移転することとなりました。今まで原町ホームに隣接し、施設長の庇護の下でいつでも相談できるといいう環境にあり、業務に専念できていたので、この度の相談課長

を命ぜられたことで、その責任をいっそう重く受け止めております。

私が七年前にこの仕事に着任した時には、「原町ホーム在宅介護支援センター」という名称で、相談員は三名でした。その後、介護保険の制度改正により「原町ホーム地域包括支援センター」となり、場所も原町ホーム内から、隣にあるデイサービスに移りました。その後、区民に分かり易い名称にと新宿区独自の「高齢者総合相談センター」となり、榎町エリアを担当することから、原町から榎町へと変わりました。

この七年でめまぐるしく環境が変わる中、移転と来年度の介護保険の見直しの基本となっている「地域包括ケア」への重責がのしかかっています。高齢者が住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活が継続できるように、地域包括ケアのさらなる推進をミッションとし、他のセンターにはない特養ホーム・通所介護・居宅介護支援事業所との連携を「強み」として、地域にますます根ざしていけるよう、これからも日々努力をしていきたいと思ひます。

平成22年度 事業報告について

平成23年5月25日開催された理事会・評議員会において「平成22年度事業報告」並びに「平成22年度決算報告」が承認されましたのでお知らせいたします。

なお、本会の事業報告並びに決算書は頁数が相当数に及びますので、その要旨のみを7頁から12頁のとおり紙上掲載いたします。

法人事務局に「平成22年度事業報告・決算書」がございますので、詳細をお知りになりたい方は、事前にお電話で来訪日をお知らせいただければ閲覧していただけます。

平成22年度 事 業 報 告

平成22年度は日本経済にやや回復する兆しがありましたが、依然として消費や雇用が低迷する中、東日本大震災が発生し、我が国の社会・経済に深刻な影響をおよぼす事態となりました。

社会福祉の分野では、新たな制度の創出に向けて様々な議論がなされており、障害者総合福祉法(仮称)や子ども・子育て新システムなどの制度概要が示されました。

当法人においては、利用者サービスの一層の充実を図るため施設運営に万全を期すとともに、人材の確保・育成に努めました。

まず施設運営についてですが、利用者への個別計画に基づいた適切なサービスを提供するとともに、老朽化した設備を積極的に更新するなど利用者の安心・安全を高めました。更に、懸案であったむさしの保育園とサンライズ武蔵野の全面改築に着手しました。また、昭島市からの地域包括支援センターの受託や、各保育園での定員の枠を超えた受入など、地域ニーズに応える運営を行って参りました。

次に人材の確保・育成についてですが、引き続き計画的な採用を進めるとともに、新規職員から施設長までを対象とした法人研修の充実に加え、各支援系グループにおける専門別の研修を計画的に実施し、職員のスキルアップに繋げました。

最後に、昭島病院の運営については救急患者の受入に力を入れるとともに、感染症入院医療機関として登録するなど、地域の中核病院としての役割を果たして参りました。また、今年度も収支の改善に努めた結果、昨年度に引きつづき黒字決算となりました。

この一年、施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援、ご協力を賜りましたことを心から感謝いたします。

同 援 だ よ り

平成22年度 施設利用状況報告

平成23年3月31日現在

グループ名	種 別	施設名	利用状況					職員配置状況					常勤換算			
			定 員	利用者数 (3月実績)	1日平均 利用者数	年間 利用者数	年間実施 延日数	年間 利用率	正規 職員	契約 職員	非常勤 A	非常勤 B		職員数 合計		
保育 支 援 系	保 育 所	むさしの保育園	154	156	155.8	45,817	294	101.2%								
		本園	125	127	126.8	37,291	294	101.5%	32	7	1	25	65	51.6		
		方南分園	29	29	29.0	8,526	294	100.0%								
		昭和郷保育園	100	116	115.3	33,782	294	114.9%	20	4	0	16	40	31.7		
		大山保育園	122	125	125.0	36,614	294	102.1%	18	6	1	10	35	34.0		
		昭和郷第二保育園	174	189	186.0	54,509	294	106.6%								
		本園	153	165	164.9	48,320	294	107.4%	28	6	0	18	50	41.9		
		分園	21	24	21.1	6,189	294	100.2%								
		みなと保育園	70	69	69.8	20,466	294	99.4%	16	1	1	6	24	23.3		
		同援みどり保育園	125	126	130.1	38,116	294	103.7%	21	6	2	17	46	38.3		
		つつじが丘保育園	110	136	133.2	39,019	294	120.7%	19	6	1	18	44	34.1		
		同援さくら保育園	108	119	120.3	35,251	294	111.0%	23	1	0	21	45	35.8		
		小 計	963	1,036	1,036	303,574	294	107.2%	177	35	6	131	349	290.7		
高 齢 者 支 援 系	養護老人ホーム	万世敬老園	200	202	200.6	73,213	365	100.3%	20	8	13	13	54	50.9		
	サンホーム	50	50	50.0	18,250	365	100.0%	9	3	2	7	21	16.4			
	ライトホーム	50	43	41.2	15,052	365	82.5%	1	2	0	3	3.0				
	小 計	300	295	291.8	106,515	365	97.3%	30	13	15	20	78	70.0			
	特別養護老人ホーム (短期入所生活介護事業含)	フジホーム	104	98.6	100.8	36,774	365	96.9%	31	14	5	19	69	61.1		
	ニューフジホーム	104	102	98.9	36,088	365	95.1%	37	8	0	29	74	62.3			
	原町ホーム	52	53.6	50.6	18,477	365	97.3%	21	3	9	9	42	38.2			
	ゆたか苑	54	54.6	53.1	19,382	365	98.3%	20	9	1	8	38	32.4			
	ひかり苑	54	53.8	53.5	19,540	365	99.1%	16	14	1	9	40	37.7			
	小 計	368	362.6	356.9	130,261	365	97.0%	125	48	16	74	263	231.7			
	認知症対応型老人共同生活介護(グループホーム)	かえで	9	9	8.0	2,934	365	89.3%	2	4	0	4	10	8.6		
	老人 サービスセンター	フジ・デイサービスセンター	25	19.7	20.6	6,346	308	82.4%	3	1	6	4	14	12.5		
	フジ・デイホーム	10	8.3	9.1	2,807	308	91.1%	1	0	5	1	7	6.3			
	原町高齢者在宅サービスセンター	15	12	14.0	4,287	307	93.1%	1	3	5	6	15	12.8			
	東大和市ふれあいデイセンターひかり苑	12	8.4	9.1	2,809	308	76.0%	2	3	0	2	7	6.7			
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター	—	—	—	8,113件	307	—	9	0	0	0	9	9.0		
	昭島市中部地域包括支援センター	—	—	—	7,452件	294	—	3	0	0	1	4	3.4			
	居宅介護支援事業所	フジホーム	—	—	3.6	886	243	—	1	1	0	0	2	2.1		
	原町ホーム	—	—	3.0	881	294	—	1	1	0	1	3	2.8			
ゆたか苑	—	—	3.5	836	241	—	2	0	0	0	2	2.0				
ひかり苑	—	—	1.5	358	243	—	1	0	0	0	1	1.0				
小 計	—	—	—	—	—	—	26	13	16	19	74	67.2				
障 害 者 支 援 系	知的障害者援護施設 (入所)	さやま園	100	98	99.2	36,203	365	99.2%	41	10	1	20	72	62.7		
	知的障害者短期保護事業	5	—	2.8	1,017	365	55.7%									
	知的障害者援護施設 (通所)	小茂根福祉園	30	35	31.5	7,648	243	104.9%	21	4	0	1	26	24.8		
	更生施設	30	29	24.7	6,011	243	82.5%	8	0	0	2	10	9.3			
	立川福祉作業所	75	77	67.8	18,245	269	90.4%	12	1	0	16	29	21.3			
	授産施設	30	30	27.0	6,532	242	90.0%									
	知的障害者支援施設	東村山生活実習所	2	—	0.3	88	273	16.1%	11	3	0	9	23	19.6		
	生活介護	10	10	6.9	1,691	244	69.3%									
	短期入所	100	101	100.8	36,799	365	100.8%	32	3	3	7	45	42.7			
	就労継続支援B	—	157	5.9	2,138	365	—	9	3	0	6	18	14.7			
	救護施設	昭島荘	—	695	26.0	9,495	365	—	19	0	0	21	40	25.8		
	さくらんぼ	6	6	6.0	2,190	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—			
	さいわい福祉センター	6	6	6.0	2,190	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—			
	アミニティ富士見	4	4	4.0	1,460	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—			
	グリーンハイツ	6	6	6.0	2,190	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—			
フレンズ・モエ	4	4	4.0	1,460	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—				
パル	6	6	6.0	2,190	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—				
それいゆ小川	6	6	6.0	2,190	365	100.0%	—	(2)	—	—	0	—				
レジオンス巣鴨	4	4	4.0	1,460	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—				
はなみずき	4	4	4.0	1,460	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—				
ユーカリ	4	3	4.0	1,460	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—				
夢オハナ	6	6	5.9	2,171	365	99.1%	—	(1)	—	—	0	—				
小 計	428	1,277	439	142,638	365	—	153	24	4	82	263	220.9				
児 童・女 性 支 援 系	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野	20	7	11.4	4,149	365	56.8%	5	3	0	4	12	10.6		
	サンライズ青山	20	19	19.3	7,057	365	96.7%									
	港区緊急一時保護	1	—	0.6	215	365	58.9%	6	3	0	3	12	9.8			
	サンライズ万世	20	20	19.5	7,110	365	97.4%									
	子育て短期支援	2	—	0.1	37	365	5.1%	7	2	0	6	15	11.1			
	サンライズ山中	20	14	14.3	5,206	365	71.3%	6	2	0	1	9	8.0			
	児童養護施設 (地域小規模)	双葉園	46	46	44.9	16,383	365	97.6%								
	双葉園	40	40	38.9	14,193	365	97.2%	28	4	1	7	40	34.5			
	高嶋の家	6	6	6.0	2,190	365	100.0%									
	婦人保護施設	いこいの家	40	30	28.6	10,428	365	71.4%	9	2	0	5	16	13.1		
小 計	169	136	138.6	50,585	365	82.0%	61	16	1	26	104	87.1				
医 療	病 院	昭島病院	199	718	718.0	—	365	—								
		入院	199	163	163.0	—	365	82.1%	200	0	0	137	337	258.1		
		外来	—	555	555.0	—	365	—								
		訪問看護ステーション	—	—	13.3	722	262.5	—	4	0	0	3	7			
収 益	印刷	—	—	—	—	—	—	13	0	0	0	13	13.0			
	土地・建物賃貸 不動産賃貸事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
合 計 (福祉施設29、病院1、事業局1、その他事業22)			2,498	3,882	3,065	756,439	365	—	789	149	58	492	1,488	1,239.0		

注1 定員については母子支援施設は世帯数で他施設は人数。
注2 地域包括支援センターは、相談件数を記載。件数は、相談内容により重複している。なお、利用者数の合計には算入していない。
注3 嘱託医等の業務委託や派遣職員は算入していない。
注4 共同生活介護・共同生活援助事業の職員配置は、委託事業のため職員数および常勤換算には含まない。
注5 臨時職員の内、非常勤Aは正規職員の所定労働時間と同じ労働時間で雇い入れられた時間給職員、非常勤Bは正規職員の所定労働時間より短い労働時間で雇い入れられた時間給職員。
なお、昭島病院(訪問看護ステーション含)では正規職員の所定労働時間は1日7時間42分(週40時間)となっており、非常勤で1日の労働時間が最長でも7時間30分であるため、非常勤職員全員が非常勤Bに該当する。

同 援 だ よ り

貸借対照表

平成23年3月31日現在

(単位:千円)

勘定科目	合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業
資産の部				
流動資産	4,078,299	3,921,182	52,657	135,737
固定資産	15,997,356	15,944,969	2,549	263,804
（基本財産）	9,038,461	9,038,461	0	0
（その他の固定資産）	6,958,895	6,906,508	2,549	263,804
繰延資産	41,076	41,076	—	—
資産の部合計	20,116,731	19,866,151	55,206	399,541
負債の部				
流動負債	1,168,567	1,096,684	21,623	81,537
固定負債	3,083,088	3,069,632	0	60,854
負債の部合計	4,251,655	4,166,316	21,623	142,391
純資産(資本)の部				
基本金	82,664	82,664	0	—
資本金	915,070	908,836	0	172,802
国庫補助金等特別積立金	3,650,726	3,650,726	0	0
その他の積立金	5,854,700	5,839,900	0	14,800
次期繰越活動収支差額	5,361,916	5,258,785	33,583	69,548
（うち当期活動収支差額）	1,029,188	1,011,798	11,963	5,427
純資産(資本)の部合計	15,865,076	15,740,911	33,583	257,150
負債及び純資産の部合計	20,116,731	19,907,227	55,206	399,541

同 援 だ よ り

事業活動収支計算書

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業
事業活動収支	事業活動収入(1)	10,782,328	10,313,817	229,459	239,052
	事業活動支出(2)	10,275,864	9,843,679	211,424	220,761
	事業活動収支差額 (3)=(1)-(2)	506,464	470,138	18,035	18,291
事業活動外収支	事業活動外収入(4)	645,871	627,445	6,363	12,063
	事業活動外支出(5)	576,960	543,829	9,085	24,046
	事業活動外収支差額 (6)=(4)-(5)	68,911	83,616	▲ 2,722	▲ 11,983
経常収支差額 (7)=(3)+(6)		575,375	553,754	15,313	6,308
就労支援事業収支	就労支援事業収入(8)	35,820	35,820	0	—
	就労支援事業支出(9)	34,836	34,836	0	—
	就労支援事業活動収支差額 (10)=(8)-(9)	984	984	0	0
特別収支	特別収入(11)	616,596	614,471	0	2,125
	特別支出(12)	160,757	157,407	3,350	—
	特別収支差額 (13)=(11)-(12)	455,839	457,064	▲ 3,350	2,125
税引前当期活動収支差額 (14)=(7)+(10)+(13)		1,032,198	1,011,802	11,963	8,433
法人税、住民税及び事業税負担額 (15)		3,006	0	0	3,006
当期活動収支差額 (16)=(14)-(15)		1,029,192	1,011,802	11,963	5,427
繰越活動収支	前期繰越活動収支差額 (17)	6,073,701	5,987,960	21,620	64,121
	当期末繰越活動収支差額 (18)=(16)+(17)	7,102,893	6,999,762	33,583	69,548
	基本金取崩額(19)	0	0	0	—
	基本金組入額(20)	0	0	0	—
	その他の積立金取崩額(21)	48,320	48,320	0	—
	その他の積立金積立額(22)	1,789,297	1,789,297	0	—
	次期繰越活動収支差額 (23)=(18)+(19)-(20)+(21)-(22)	5,361,916	5,258,785	33,583	69,548

同 援 だ よ り

資金収支計算書

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日

(単位:千円)

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	収益事業
経常活動収支	経常活動収入(1)	7,025,211	6,828,897	196,314	—
	経常活動支出(2)	6,311,001	6,130,062	180,939	—
	経常活動収支差額 (3)=(1)-(2)	714,210	698,835	15,375	0
事業活動外収支	就労支援事業収入(4)	234,357	234,357	0	—
	就労支援事業支出(5)	218,884	218,884	0	—
	就労支援事業活動収支差額 (6)=(4)-(5)	15,473	15,473	0	0
施設整備等収支	施設整備等収入(7)	501,421	501,421	0	—
	施設整備等支出(8)	251,187	249,651	1,536	—
	施設整備等収支差額 (9)=(7)-(8)	250,234	251,770	▲ 1,536	0
財務活動収支	財務活動収入計(10)	178,165	178,165	0	—
	財務活動支出計(11)	993,398	990,048	3,350	—
	財務活動収支差額 (12)=(10)-(11)	▲ 815,233	▲ 811,883	▲ 3,350	0
予備費(13)		0	0	0	0
当期資金収支差額合計 (14)=(3)+(6)-(9)+(12)-(13)		164,684	154,195	10,489	0
前期末支払資金残高(15)		2,422,465	2,395,531	26,934	0
当期末支払資金残高(14)+(15)		2,587,149	2,549,726	37,423	0

財 産 目 録

平成23年3月31日現在

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会

(単位:千円)

I 資 産 の 部		¥ 20,116,731
(1) 流 動 資 産	¥ 4,078,299	
(2) 固 定 資 産	¥ 15,997,356	
ア.基本財産	¥ 9,038,461	
イ.その他の固定資産	¥ 6,958,895	
(3) 繰 延 資 産	¥ 41,076	
II 負 債 の 部		¥ 4,251,655
(1) 流 動 負 債	¥ 1,168,567	
(2) 固 定 負 債	¥ 3,083,088	
III 差 引 純 資 産		¥ 15,865,076

監 査 報 告 書

平成23年5月13日

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会
理事長 牧 野 洋 一 殿

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会
監 事 五十嵐 力 平
監 事 鈴 木 道 生

私たち監事は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの平成22年度の事業年度に関して、理事の業務執行の状況及び社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会の財産の状況について監査をいたしました。その結果につき以下のとおり報告します。

1 監査の方法の概要

監事は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、各施設における業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び事業報告書につき検討いたしました。

2 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録は、法令及び定款に従い法人の財産、事業活動及び資金収支の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業活動報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を示しているものと認めます。
- (4) 理事の職務遂行に関する不整の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

※「同援だより」に名簿掲載希望欄へ〇印をご記入頂いた方のみ掲載しております。

◇伊藤彰浩 ◇海野昌伸 ◇大西陽
 ◇齋藤宏美 ◇佐々木涼 ◇中村浩二
 ◇名久井健治 ◇榎島房子 ◇吉村愛子
 ◇有新井精肉店 ◇内田洋行
 ◇株金井商店 ◇川鍋商事
 ◇株コイヌマ ◇京フールドサービス
 ◇株Nurrsing ◇株肉の三橋
 ◇日本エンゼル
 ◇株西東京F・S・O
 ◇橋本工務店
 ◇橋本誠一 ◇ひかりのくに
 ◇株東京営業所 ◇株イブ一級建築士事務所
 ◇横田屋米店

後 援 会

◇こども教育宝仙大学同窓会
 ◇中野威光堂 竹谷内三枝子
 ◇新渡戸文化小学校
 ◇社会福祉法人村山苑職員有志一同
 ◇MORTH日本会 朝生久子
 ◇としま女性会 会長 岡田てるゑ
 ◇森岡正代

ご 寄 付

ご支援ありがとうございました
(敬称略順不同)



長寿時代の歯周病

昭島病院 歯科医長 小出 高秀

厚労省の医療施設調査によると、一般病院で歯科のある施設は、平成五年をピークに二十二%減少していると言われています。

こうした時代に十七年間もやってこられたのは、待ち時間の長いなか根気強く通つて下さった皆様のお蔭であると感謝しております。

さて平均寿命についてですが、昭和四十年では、男性六十七歳、女性七十二歳であったものが、平成二十一年七月の厚労省発表では、男性七十九歳、女性八十六歳と男女とも過去最高を記録しました。

それに比べて歯の寿命はどうでしょうか？ 八十歳になっても二十本以上自分の歯を保とうという「八〇二〇運動」が始まったのは、二〇年前のことです。

平成五年の調査では八十八〜八十四歳の残っている歯は五本。

平成十七年では九本と増加はしているものの、目標にはまだ到達しておりません。

いくら長生きをしても、健康で、おいしく食事をして、自立できる老後でなければ、本当の意味で幸せとはいえない

と思います。

そういう観点から、歯を失うもつとも大きな要因である歯周病に今から関心をもつていただきたいと思うのです。

例えば、歯ぐきが腫れる、歯肉出血がある、歯が揺れるなど、軽い症状で構いません。

一度歯科を受診していただき、皆様とともに目標の実現に邁進していききたいと思っております。

良い歯ブラシ、歯磨き粉の選び方

良い・悪い歯ブラシ

あまりに安価なものはナイロンの質が悪い場合があります。出張等でホテルの使い捨て歯ブラシを使う機会が多い人は、エナメル質や歯茎の減りが著しいようです。良いブラシは、弾力があって水切れが良く、清潔さを保てるもの。



歯茎に優しいのは毛先を丸型に処理

したものです。また、どんな歯ブラシでも毛先が開いてしまったら「悪い歯ブラシ」。すぐに交換しましょう。

良い・悪い歯磨き粉

一般的に歯磨き粉は、研磨剤、発泡剤、香料、フッ素などを含まれます。

しかし、粒子が粗い研磨剤だと歯も削られてしまい、泡立ちを良くする界面活性剤は、敏感な人なら口の中が荒れることも。

また、大人用歯磨き粉には1100ppm(1g中11mg)程度のフッ素が入っています。

子供が使う場合は、グリーンピース大を量の目安にしてください。



歯磨き粉はつけるべき？

歯垢を落とすのはブラッシングの物理的擦過によるもの。その意味で歯磨き粉は不要です。

ミントの爽快感や泡立ちから、歯垢が落ちていないのに磨いた気になつてしまう人も多いようです。反面、ブラッシングでは除去できない

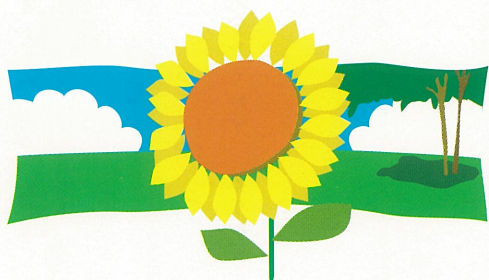


タバコやお茶のシミには、歯磨き粉が効果的な場合も。ただし、研磨剤の使いすぎは歯に良くないため、少なめの使用がお勧めです。

歯ブラシ&歯磨き粉の選び方

一般的には、持ち手が真つ直ぐで、ブラシ部分が小さめのものが磨き良いと言われます。

自分にあつたものを選びましょう。歯磨き粉は安価なもの避け、添加物が気になる場合は化学成分を含まないオーガニック製品や、研磨剤や発泡剤を含まないものを探してください。



し
せ
じ
通
信

◆サンホーム◆

「持てる力への支援」→潤いのある生活を楽しむはサンホームの基本目標です。

これは利用者お一人おひとりを尊重し、利用者本位の安全・安心な生活を送っていただけることを目標としています。サンホームが他の高齢系施設と違っているところは、日常生活の活性化に向けた取り組みが活発であると言うことです。

自立支援の施設にふさわしく利用者はそれぞれ必ず何かを持ってもらえます。それは長い人生の中で培われたものであり、新しく経験されたものでもあり、めまぐるしく変わっていく世の中のすべを知っておられます。

さて、沢山の宝の引き出しの中からサンホームでは多くの利用者が地域に向きボランテアを行ったり、園内活動にも多くの手を貸して下さいます。

ボランテアでは近隣小学校に向き、人として大切なことを遊びを通して教えるに行かれたり、特養やデイサービスの活動の補助的作業をされたりしています。地域に開かれた施設としてボランテアを受け入れるばかりではなくサンホーム用語では「逆ボランテア」として地域に向かい



(加島 記)

いくことを継続して行っています。又、毎月第三金曜日の公開講座では地域の方、利用者が講師になり演題を決め座談会方式で堅苦しくなく和気藹々に行っています。ここでも持てる力を存分に発揮していただいております。サークル・同好会・御菓子作り等など日課の中でも力を発揮され張りや潤いのある生活を送られています。

地域との関わりを通して一住民としてサンホームを知っていただき、地域のあり方やサンホームの持つ機能や外部発信し地域ニーズの把握に努めています。職員は常に利用者が輝けるよう発想、創意工夫をこらし活気ある明るい施設を目指しています。

◆東村山生活実習所◆

閑静な文教地区の中、いつもきれいに管理された広い公園の隣に、ガーデンングに彩られた障害者支援施設「東村山生活実習所」があります。

昨年三月、障害者自立支援法への移行に合わせて、就労継続支援事業B型がスタートし、カフェ「ふわふわドリーム」が四月にオープンしました。それからはや一年以上が過ぎ、十一名の方々がいきいきと活躍されています。

利用者の年齢は十代から六十代まで、昨年度学校を卒業した方や企業で働いた経験のある方もいます。それぞれの経験や力を生かしながら、カフェを中心とした仕事をしています。

「ふわふわドリーム」の名称は、利用者同士の話し合いで生まれました。お客さんが気軽に訪れることができ、また、働く私たちも夢を持って働きたいとの気持ちも反映されています。みんながお店の名前を広めようと、仕事を頑張っているところです。

仕事の主なものは、お菓子作りとカフェの運営です。

お菓子作りでは、材料を吟味し、手作り・無添加のクッキーやシフォンケーキ、その他様々な製品を作っています。お菓子の種類や味は、ボランテア、そして来て下さるお客様の話しの中からもアイデアを得つつ、日々試行錯誤を繰り返しています。販売用のお菓子は、個別包装し、型紙を抜いた色とりどりの模様を糊付けして、飾りつけ

同 援 俳 壇

昭島荘 道旬会

桜餅

気分よく来て ありがとう
秀雄

初まごに

つるしびを見せ えがおかな
きぬ

つくし出て

子供げ元気に 野で遊ぶ
美智子

庭に咲く

すみれがとても きれいだな
信吾

ライトホーム

鳩の木や

羽ばたくごとく 青嵐

手折りきて

反かに香る リラの花
佳子

母の日に

花が届きて 一人の餉

魔女になり

雲に乗りたき 春の空

禮子



を行い製品化します。他の施設からの注文やお中元・お歳暮などの個別の注文も承っており、配送も行っています。出来上がったお菓子には、「作り手の優しさ」とぬくもりを感じてもらい、食べたら思わず笑顔になってくれる、「おいしい」という思いが込められています。

カフェの運営に関しては、作ったケーキやシフォンケーキ等を飲み物とともに地域の方々に提供しています。徐々にはありますが、口コミにより常連のお客様が増え、地域の憩いの場になっています。

そしてカフェスペースは、貸切りや行事にも対応しています。五月の合同

祭り際には、満員の状況でしたが、みんなの協力で、乗り切ることができました。ご利用者さん達は、自分たちで販売目標を決め、それを達成することができました。

ここでは、利用者自らがお店を良くしようと、主体的に考え、みんなで話し合いながら仕事を行っています。「働くことが楽しい」「好きな仕事ができた」「仲間ができた」等、感想がたくさんです。これからますます、地域に根ざした素敵な店になればいいなと思っているところです。

(大 声 記)

◆ 同 援 さ く ら 保 育 園 ◆

同援さくら保育園では幼児クラスになると、外部より講師を招いて指導を行っている取り組みが二つあります。(健康体育・和太鼓・絵画指導)その中でも五歳児が行っている和太鼓はお祭り好きな土地柄でもあり、保護者からも好評を得ています。

その年毎のテーマに基づき、講師と子ども達とのやりとりから出てきた言葉を組み合わせ、リズムにしています。和太鼓の技術というよりも楽しく表現する喜びを大事にしています。講師の叩いたリズムを真似して叩く、「まねっこ太鼓」が子ども達は大好きではりきって行っています。今年の五歳児は、開園した年に零歳児クラスでしたが、その頃から手作りの太鼓を叩いて真似をしていました。憧れの年長組に

なり、昨年新調したハッピを着て発表出来る事を、今から楽しみに毎月の指導を行っています。

保育園は託児的なイメージを持っている方がまだいるようですが、保護者からは「英語を取り入れてほしい」等という要望もあります。当園での取り組みについては「様々な経験をさせてもらえる」「幼稚園のような内容も取り入れ良い」「他園では出来ない取り組みがあり、親も楽しみ」という声も多く聞かれます。保育園は子ども達にとって生活の場ですが、その中で色々な活動を通して豊かな心を育み、子ども達が子どもらしく、のびのびと輝いて活動出来る取り組みをこれからも継続していきたいと思えます。

(唐澤 記)



万 世 敬 老 園

チヌーリップ

ひと所とめ

開きけり
月岡 久三

遠足が

マラソンになる 園児たら
宜 準子

花見酒

花びら一つ 又一つ
佐藤 玲子

別れては

変わる小径 梅林
小島 照夫

サ ン ホ ー ム

余震でも

慌ててかぶる ヘルメット
子供らに

高幡の

元氣もらいし ボランティア

紫陽花待つや

不動様
ペンネームペコバ



祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方が表彰されました。
おめでとうございます。

◎ 社団法人東京都民間保育園協会

永年勤続表彰

みなと保育園
保育士 寶田真奈美

資格取得の紹介

左記の方々が資格取得しました。
日頃の業務に生かして活躍を期待します。

【社会福祉士】

ニューフジホーム

介護職員 真野 学

万世敬老園

支援員 山口 航

さいわい福祉センター

生活支援員 平井 弘人

【介護福祉士】

ニューフジホーム

介護職員 齊藤 恵美

介護職員 野村 武史

介護職員 田村 千尋

ゆたか苑

介護職員 森 智弘

介護職員 今林 幸枝

介護職員 福島 洋一

原町ホーム

介護職員 佐藤 輝

介護職員 上田寿美江

さいわい福祉センター

生活支援員 本村 隆浩

【介護支援専門員】

フジホーム

介護職員 廣中 容子

ゆたか苑

介護職員 三林 健二

原町ホーム

介護職員 高本由美子

小茂根福祉園

生活支援員 高田 紀子

【精神保健福祉士】

新宿区榎町

高齢者総合相談センター
相談員 後藤八重子

【臨床心理士】

さやま園

生活支援員 力石 靖子

お知らせ

同援各施設では左記の予定でバザーや夏まつり等を開催致します。品物のご寄附ご協力等よろしくお願い致します。

○サンライズ青山 夏祭り

七月九日(土)十時半

○つつじが丘保育園夏祭り・バザー

七月十五日(金)十五時

○むさしの保育園 縁日盆踊り会

七月十五日(金)十八時

○ひかり苑・サンホーム 合同納涼大会

七月二十二日(金)十七時

○小茂根福祉園 こもねフェスタ

七月二十三日(土)十五時

○さやま園 夏祭り

七月三十日(土)十七時

○さいわい福祉センター

夕涼み会参加

八月六日(土)十七時

○フジホーム 納涼祭

八月十二日(金)十三時半

○さやま園祭

十月十六日(日)十時

○原町ホーム 新宿区民祭

十月十六日(日)十時

○同援みどり保育園 バザー

十月二十二日(土)十二時

○ゆたか苑 地域交流バザール

十月二十三日(日)十時

○昭和郷フェステバル

十月三日(木)十時

○大山保育園・サンライズ山中

ほかほかバザール
十一月五日(土)十二時半

○みなと保育園 バザー

十一月五日(土)十二時半

○同援さくら保育園 バザー

十一月五日(土)十二時

○フジホーム 文化祭

十一月十日(木)

○小茂根福祉園 こもねまつり

十一月十二日(土)十二時

○さくらんぼ祭り

十一月二十日(日)十二時半

雑感

旅に出かける時にはよく夜行列車を利用する。夕暮れに出発し通勤ラッシュで混雑するホームを横目にビールで乾杯。至福の時である。翌朝目覚めると見知らぬ土地を走っている。列車で迎える朝はとても心地よい。昨日までの慌ただしい生活をふと忘れる。

私にとって夜行列車は単なる移動手段ではなく旅の一部分であり、自らを見つめ直すことができる空間でもある。そんな夢列車も年々減り続け今では全国でわずか九路線。いつまでも走り続けてほしいものである。

(魚津記)

―表紙の写真―

「山中湖にて富士山とひまわり」

(平尾正一氏)

平成二十三年七月一日 発行
東京都新宿区原町三の八
電話 〇三(三三四)七二六一
社会福祉法人 東京都同胞援護会
発行者 牧野 洋一
印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都千代田区外神田一―一五